



題字 井口 文章  
再刊 第469号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2024

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：発足したばかりの生徒会を取材  
海外大学に進学したOBに取材  
二面：旧生徒会が任期を振り返る  
優秀な結果を残した秋の部活動特集

# 新進気鋭 錦城に新たな風を巻き起こせ

## 生徒会が始動

### 生徒会役員5名は公約実現に向け、何を語る

11月13日(水)に行われた生徒会選挙の結果を受けて発足した新生徒会。今号では、新役員に各自の抱負や公約実現に向けて取り組むことをインタビューした。さらには、11月20日(水)放課後に行われた生徒会定例会に潜入し、錦城の現状について話し合われた内容をお届けする。(編集部共同取材)

### この先の活動を見据えて

学校の中枢にあたる中央委員会、代議委員会、H R委員会を、名前だけにならないようしっかりと組織すると始めたのは、生徒会長の峯村梅花さん(2D)。

「校則改正は代議委員会に任せ、後夜祭の企画など、新しいものを取り入れていくという面で、中央委員会が動くと思います」と話した。「公約については、すぐできるものではないので、いつかはなるものとして長期的に努力を続けていくしかないと思っています」と語る。生徒会を「毎年変



新生徒会のメンバーたち  
(向かって前列：新井さん、峯村さん、後列：黒崎さん、神田さん、小貫さん)

### 徐々にスマホの利用を

「今までに感じた改善点を再確認し、段階的に一歩一歩改善できたらいいと思います」と語るのは、副生徒会長の神田陸翔さん(1E)。

スマホの使用自由化の公約について、「まず錦城祭や球大など限定された場面で許可してみたい。大きな問題なく終えられたら、普段の学校生活でも使えるように案を出していく予定です」と話した。3月に提案書を提出したいという神田さん。スマホの使用が可能な他の私立高校の生徒会と話し合い情報を入れ、案に説得力を持たせられるようにすると思気込んだ。

### 海外大学進学者が実体験を語る

「今やっていることを徹底的に吸収してほしい」

10月31日(木)、53回生の森謙太さん、54回生の喜頭蓮さんを招いて、海外大学進学者講演会が行われた。イギリスの大学に進学した森さんは、自身の実際の留学までの流れや、大学生活の様子について語った。留学を考えている生徒に向けて、海外の大学では頻りにディスカッションを行うため、日頃からニュースを見て自分の意見を持つなど、自主的に考える習慣をつ

### 自身の経験をお二人

頭さんは、高校生になる前から海外の大学に進学すると決めていて、進路選択時も国内大学への迷いはなかったという。高校3年生の時、留学に向けた「EAP」取得のために1カ月間フィリピンに語学留学をした経験について話してくれた。

「ここからは新聞委員会が取材した内容をお届けする。二人とも大学で一番大変だったことは、ディスカッションの(鼻)

### 授業で確固たる自分の意見を持つことだったという。勉強した内容を自分のものにして、常に何か意見を持っている必要があるという。1年目は自分の意見が思いつかなくて大変だった」と振り返った。 現在進路について悩んでいる錦城生に向けて、森さんは「全力で勉強してほしい。今やっていることを徹底的に吸収してほしい」と激励の言葉を送り、喜頭さんは「全部を楽しんでほしい」と話し、困難な状況でも楽しむことが大学で役立つと語った。

### 意見箱の更なる発展へ

「小さな不安を解消してより良い錦城にしていきたいです」と話してくれたのは副監査委員長の小貫日菜子さん(1J)。

意見箱の活用を公約として挙げた小貫さん。自身が一般中央委員として意見箱を開封した時のことがきっかけでこの公約を挙げたという。小貫さんによると、意見箱には多くても5枚程度しか投函されていないという。投函されている意見も無理のある要望が多く、活用されているとは言えない状況だったという。このような状況を踏まえて小貫さんは、今の意見箱は意見を入れるににくい雰囲気なので用紙を見直し、意見に対する返答を分かりやすくするなど意見が一方通行にならないようにしていきたいです」と意気込んだ。

### 進化と発展を続ける錦城祭へ

「絶対楽しいものにしてしまえ」と抱負を語るのは、錦城祭実行委員長の黒崎大季さん(1E)。選挙でも呼びかけたこの言葉。錦城祭を担う存在として固い演説で自分の性格を隠したくなかったという。選挙を終えた今も、周りの人に「漫才、楽しみにしているよ!」と声を交わされることがあるそう。黒崎さんが目指すのは、「進化と発展」を続ける錦城祭。錦城祭の本質そのものを変えたいというよりは、「企画をよりよくしていきたい」と考えているという。順調に活動を進めていきたいと話す。アンケートも行い、生徒の意見をもっと取り入れたいと語り、活動への積極的な姿勢を見せた。

### みんなで協力して作ったグラタン

11月に、2年生が家庭科で調理実習を行いました! 献立は、ホワイトグラタンとサラダ。グラタンは、ホワイトソースをイチから作り、ガスオープンで香ばしく焼き上げました。口の中にとろけるチーズと、パン粉のカリッとした食感が絶妙にマッチ!

実習後は、栄養バランスや反省レポートにまとめ、それぞれの学びに繋がりました。(蘭・普)

### むらさき草

父は、中学生の時からずっと同じ規定を今も使っている。興味を持って、職場から帰ってほしいとお願ひしてみても、翌日、プリントの割がれかけた規定を見せられた。四十年近く経っても現役で活躍している規定のタフさに驚いた。規定を曲げて遊んでいて折ってしまったことを思い出した。大事に規定を使っている父に比べて、私はよっつう物を壊してしまっている。いつも父は「かたがあるものは壊れるから大丈夫」と言いながら器用に直してくれている。かたがあるものは壊れる。確かにそうだ。少し前だが、イスラエルの博物館で四歳の男の子が展示された壺を倒して割ってしまったという出来事があった。歴史的な文化財のような価値あるものでも身近なシャープペンでも、いつかは壊れたり失われたりする。ふと、進路選択の期間のことを思い出した。入学して入った今のクラスは、奇跡が起きたかのようにすすぶる居心地がいい。そんなクラスで「俺は理系に行く」「私は文系にする」と自分が決めた進路を共有しようか、と少しみりした気持ちになった。たいせつなもの、目に見えないんだよ。星の王子さまで狐が王子様と言う有名な台詞だ。友達との関係とか一緒にいられる時間とか、かたがあるわけでもなく目に見えない。けれども、かたがあるものと同じように、今あるものは形を変えていく。目に見えないもの。だから、つい日々の高校生活や人間関係の大切さは見落としがちだ。後悔のないように大切にできるものを今のうちに大切にしながら一度きりの高校生活を駆け抜けて行きたい。(風)

### ルール周知で意識が変わる

監査委員長の新井陽奈さん(2A)は「今あるルールを守ることでは先生たちとの信頼関係が確立され、ルールを生徒の希望する方向へ変えることができると思います」と話す。

新井さんは、最終的にルールを守るか否かは個人に委ねられると前置きをした上で、「知っているか知らないかで意識が変わるので、ルールを周知することは大切だと思っています」と語った。

### 錦城の現状について意見が交わされる

各クラスへ連絡する等の取り組みがなされている。生徒会の活動内容が生徒に伝わっていないという指摘に対して、一般委員の高杉咲良さん(3E)は動かしている話が多くあるが、あくまでも提案の段階であり確定していることで

### 新生徒会はどう活動する

新生徒会の活動計画について、会長の峯村梅花さんは、「中央委員会、代議委員会、H R委員会幹部の3団体で集まる会の実施を予定しています」と話した。第一回はすでに実施済みだ。また、中央委員会全体では外部とつながる企画として、地域事業企画(459号参照)を続けていく予定だ。旧生徒会からの引き継ぎに関しては、まだ具体的な引き継ぎはできていないとし、「H R委員会の独立と代議委員会への仕事の引継ぎ、助言を早急に進めていき

### 響き渡る豊かな音色

歌声と笑顔がホールを包む

11月5日、61回生、62回生は、ルネ小平で行われたゴスペルを鑑賞した。期待に満ち溢れた会場のなか、美しい歌声と共に現れたのは、Anointed mass Choirの方々。多彩なメロディーと身体全体で表現するリズムで、錦城生約千人を魅了した。生徒が参加できるロック調のゴスペルでは、先生方のサプライズ出演もあり、会場は笑いと拍手に包まれた。また曲と曲の間で語られたゴスペルの歴史や解説は、錦城生にゴスペルへの関心を深めるきっかけをつくった。

### 視聴覚教室 今年もゴスペル鑑賞

先生方がステージに上がる場面も(提供：福江先生)

聴く人のことを思って歌う

公演終了後、今回鑑賞させていただいた、Anointed mass choirの河原美由紀さん、池上真衣さんにお話を伺った。今回の公演で大変だったことを伺うと、「大変だったことは何もありません。いつも聞いてくださる方のことを思って歌うということを心掛けていて、今回は錦城生の方々へ歌うということが決まっていたので難しくなかったです」と答えてくれた。聴いた人に「聴いてよかったな」と思ってもらうこと、感謝の気持ちを忘れないことを大切にしているというお二人。お二人にとってのゴスペルとは何かを伺うと、河原さんは「生活そのもの」、池上さんは「当たり前の中の日常の中にある」と語ってくれた。錦城生について、「静かな曲は静かに、ノれる曲はハンドクラップをして聴いてくれて、メリハリのあるすごく良い学校というイメージでした。一緒に(このステージを)作ることで良かったです」と振り返った。(燕・鼻)

### ルール順守の徹底を

「知っていないか知らないかで意識が変わるので、ルールを周知することは大切だと思っています」と語った。

### 錦城の現状について意見が交わされる

各クラスへ連絡する等の取り組みがなされている。生徒会の活動内容が生徒に伝わっていないという指摘に対して、一般委員の高杉咲良さん(3E)は動かしている話が多くあるが、あくまでも提案の段階であり確定していることで

### 新生徒会はどう活動する

新生徒会の活動計画について、会長の峯村梅花さんは、「中央委員会、代議委員会、H R委員会幹部の3団体で集まる会の実施を予定しています」と話した。第一回はすでに実施済みだ。また、中央委員会全体では外部とつながる企画として、地域事業企画(459号参照)を続けていく予定だ。旧生徒会からの引き継ぎに関しては、まだ具体的な引き継ぎはできていないとし、「H R委員会の独立と代議委員会への仕事の引継ぎ、助言を早急に進めていき

### 響き渡る豊かな音色

歌声と笑顔がホールを包む

11月5日、61回生、62回生は、ルネ小平で行われたゴスペルを鑑賞した。期待に満ち溢れた会場のなか、美しい歌声と共に現れたのは、Anointed mass Choirの方々。多彩なメロディーと身体全体で表現するリズムで、錦城生約千人を魅了した。生徒が参加できるロック調のゴスペルでは、先生方のサプライズ出演もあり、会場は笑いと拍手に包まれた。また曲と曲の間で語られたゴスペルの歴史や解説は、錦城生にゴスペルへの関心を深めるきっかけをつくった。

### 視聴覚教室 今年もゴスペル鑑賞

先生方がステージに上がる場面も(提供：福江先生)

聴く人のことを思って歌う

公演終了後、今回鑑賞させていただいた、Anointed mass choirの河原美由紀さん、池上真衣さんにお話を伺った。今回の公演で大変だったことを伺うと、「大変だったことは何もありません。いつも聞いてくださる方のことを思って歌うということを心掛けていて、今回は錦城生の方々へ歌うということが決まっていたので難しくなかったです」と答えてくれた。聴いた人に「聴いてよかったな」と思ってもらうこと、感謝の気持ちを忘れないことを大切にしているというお二人。お二人にとってのゴスペルとは何かを伺うと、河原さんは「生活そのもの」、池上さんは「当たり前の中の日常の中にある」と語ってくれた。錦城生について、「静かな曲は静かに、ノれる曲はハンドクラップをして聴いてくれて、メリハリのあるすごく良い学校というイメージでした。一緒に(このステージを)作ることで良かったです」と振り返った。(燕・鼻)

# 一年間の活動を振り返って 旧生徒会が語る

## 生徒会選挙をもって任期が終了した旧生徒会の5人。公約の達成度など、これまでの活動を振り返ってもらった。

### 新生徒会への期待を胸に

生徒会長を務めた山田拓仁さん(3E)は、「副会長だった時に比べて達成物は多い」と任期を振り返る。HR委員会の活動をスタートさせたことから公約の達成度は70〜80%。この先3〜4年かけてHR委員会が中央委員会から独立し、生徒自治に動けたら100%になると思います」と今後の期待を語った。

「貸し傘の公約については、以前は100%だった達成度も現在は20%だ」という。大半の傘が返ってこないことに「ルール説明の動画が広く流れた」と話した。

「この政策を続けるのならもっと厳しいルールが必要になる」と話した。

「公約として掲げていたジャージ登校については、いくつかの制限をかけることを条件に、今検討を重ねています」と教えてくれた。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。



これまでの成果を語り合う  
旧生徒会の5人

## 中央では有志の活動も継続

中央委員会では、有志の活動も継続している。現在、有志メンバーが、テレビ東京の『田村淳のTalkRide』にて新たな企画に参加している。地域の課題の解決や、地方創生に向けた取り組みを行うプロジェクト「TalkRide」。錦城では昨年度1月に、メンバー4人が地域課題への取り組みをまとめたプレゼンを発表し、その様子が収録された。実際の放映やYouTubeでの生配信を観たという生徒も多い。

今回、新企画が開始していることを受けて、メンバーである一般中央委員の深瀬千帆さん(2C)にお話を聞いた。深瀬さんによると、昨年度に引き続き錦城高校とFC東京がタッグを組んで、小平周辺の地域を対象とした取り組みを行うとのことだ。

10月には全国の参加者がリモートで講義に集まり、「提供する商品やサービスが、どのような顧客に向けたものか？」という人物設定について

考えたという。現在、具体的に何をやるかはまだ決まっていないが、各自のアイデアを元に構想を練っていく予定だ」と話してくれた。深瀬さんは「昨年度は本当に良いものを考えることができた」と話している。今回も、必要としている人の想いを形にできるように頑張りたいという意気込みを語った。

今後は「TalkRide」での中央委員の活動をお伝えしていきます。お楽しみに！(普)

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

## 「関東のレベルの高さを感じた」 陸上部川名さん 競歩で関東大会に出場

陸上部川名さん 競歩で関東大会に出場

10月19日(土)〜20日(日)に、栃木県宇都宮市にて行われた関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会に陸上競技部の川名凛さん(2D)が女子5000m競歩で出場した。関東大会という大舞台だったが、結果は23位と惜しくも入賞とはならなかった。

川名さんは大会を振り返り「狙っていたタイムが出せず悔しかったです。周りを見る余裕がなかったのが残念でした」と悔しい思いを語る。大会に向けて、1000mのインターバルのペース確認のほか、自分が歩いている姿を撮影した

動画を見てフォーム確認をしたという川名さん。しかし、新人戦では関東全ても強い選手が集まっており、レベルの高さを感じたそう。また、初めて行く会場だったため、普段の試合とは違う環境で困惑する点も多かったと振り返る。今大会で特に悔しかったこととして、川名さんは試合途中まで競っていた選手に置いて行かれてしまったことを挙げる。自分のペースを乱さない、一定ペースを刻んでいけるようにしたいと話した。また、体力をつけることも改善点として挙げた。

次大会に向け、「関東大会の目標を達成したいです。そして自己ベストも出したいです」と反省を踏まえて意気込む川名さん。続けて、「これからも陸上競技部の応援よろしくをお願いします！」と錦城生へメッセージを送った。(英)



看板の横で記念写真  
(提供：陸上競技部)

動画を見てフォーム確認をしたという川名さん。しかし、新人戦では関東全ても強い選手が集まっており、レベルの高さを感じたそう。また、初めて行く会場だったため、普段の試合とは違う環境で困惑する点も多かったと振り返る。今大会で特に悔しかったこととして、川名さんは試合途中まで競っていた選手に置いて行かれてしまったことを挙げる。自分のペースを乱さない、一定ペースを刻んでいけるようにしたいと話した。また、体力をつけることも改善点として挙げた。

次大会に向け、「関東大会の目標を達成したいです。そして自己ベストも出したいです」と反省を踏まえて意気込む川名さん。続けて、「これからも陸上競技部の応援よろしくをお願いします！」と錦城生へメッセージを送った。(英)

## 錦城新聞が都最優秀賞 来年度 かがわ総文出場決定

11月16日(土)に、2024年度第40回東京都高等学校新聞コンクールの表彰式が三輪田学園中学校・高等学校にて開催された。新聞委員会は18年連続となる最優秀賞を受賞し、来年の7月に行われる第48回全国高等学校総合文化祭かがわ総文2025に出場することが決定した。また、コンクールの前には他校の人と混合の班が編成され、交流新聞制作が行われた。「若者」というテーマで

### 副委員長が賞状を受け取る

「紙面にするなら、どんな内容やレイアウトにするか？」を班員と一緒に考えた。三輪田学園高校1年の横山十希さんは、自身の学校では「特集号を組むことがあまりなかったのも、とても印象に残りました」と今回の活動の感想を話してくれた。これまでたくさんの人と話すことはあまり得意ではなかったという横山さんだが、「とても楽しかったです」と制作を振り返った。今後の活動について聞くと、「他校の人との交流をもっと増やせたらいいと思います。外部の方への取材をもっと頑張りたいです」と意気込みを話してくれた。都立川川高校1年の市川美緒さんは、他校生徒との交流を経て「新聞の構成についてなど、しっかりと話し合いをすることの大切さを実感しました」と語る。委員会内での中核を担うことになる来年へ向けて「自分が主導して取材を進めたいです」と意気込んだ。(瑞・普)



話し合いながら交流新聞を作る

## 写真部 “ネモフィラ” 撮った写真「100選」に



「光の当たり具合とバランスが難しかったです」と話した。須永さんは「陽春の候」という題名は、春を象徴するネモフィラがとても綺麗で、ぴったりだと思って選んだという。「『清々しい心』を持ち『どこでも成功』できるようにと願います」と語った。(泰)

8月16日(金)、富士フィルム主催の「PHOTO IS」想いをつなぐ。あなたが主役の写真展「心に響いた100選」に写真部の須永聖さん(2F)の作品が選ばれた。

「まさか選ばれるとは」と驚きを口にした須永さんは、同時に嬉しかったと笑顔を見せた。作品は、写真部として昭和記念公園にネモフィラを撮りに行った際の一枚だ。写真を撮るのは好きだが得意ではない、という須永さんは「綺麗に写るポイントを探してめっちゃカメラを動かしました」と振り返った。写真を撮るうえで、上からではなく、お花目線になるよう横からの構図にして工夫したとい

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

「達成感、しかし改善点も」  
副生徒会長を務めた山田花さん(2D)は、公約の達成度について「予想以上に副会長や中央委員としての仕事があり、思ったより進まなかったというのが正直なところ」と話した。

Table with 2 columns: Event Name and Date. Includes items like 大会報告, 空手道部, 女子団体形3位, etc.